

ベネズエラ

<2006年の注目すべきポイント>

2005年9月に、チャベス大統領は、天然資源の国営化を宣言し、国営鉱山会社の設立、既存鉱業権の見直し、新規鉱業権付与の制限等、鉱業政策の大きな転換を行う旨発言したことで、一時、鉱業関係者の間に動揺が広がったが、現在のところ、金探鉱開発を中心とした進行中のプロジェクトには大きな影響は出ていない模様。しかしながら、現在、民間投資家が保有するプロジェクト権益の過半数を国家即ち国営鉱業公社に移管することを義務づけることなどを骨子とした鉱業法改正法案が審議中であるとされ、今後の民間企業による鉱業活動が制限される可能性があり、その審議の行方が注目される。

1. 非鉄金属一般概況

ベネズエラの産業の中心は石油関連産業（輸出額の約80%、国庫歳入の約50%、国内総生産の約25%を石油に依存）であり、本産業への依存度が極めて高い。これに続く輸出産業は鉄鉱石とアルミであり、鉄鉱石は年産2千万t程度、ボーキサイトは年産5百万t程度を輸出している。同国の非鉄産業は、金とニッケルにほぼ限定されている。

1999年9月の新鉱業法が施行されてから、市況が高値推移している金を対象に、外資を中心として比較的活発な探鉱開発活動が見られる。この中でも、Bolivar Gold社(加)と国営のCVG Minerven社のJV(95%/5%)により開発が進められていたChoco 10金鉱床が2005年8月より操業を開始し、一方、Gold Reserve社(加)による金・銅鉱床であるBrisas金・銅鉱床や、Crystallex社所有のLas Cristinas金プロジェクトも現在開発待ちの状況にあるなど、注目プロジェクトは少なくない。

しかしながら、2006年12月に急進左派のチャベス大統領が再選されたことで、資源の国家管理の動きが一層強まっていくものと見られ、これら有望案件の行方が懸念視されている。

2. 鉱業政策

2005年9月にチャベス大統領が言及した鉱業政策転換のポイントは以下のとおり。

- ・今後、外資企業等に対し、金、ダイヤモンド等の鉱業権は付与しない。
- ・既に付与している鉱業権、民間との鉱業契約を見直し、休眠状態にある場合はこれを取り消す。
- ・既に鉱業権を保有し操業中にある鉱山は、

引き続きこれを認める。

これを受け、現在、民間投資家が保有するプロジェクト権益の過半数を国営鉱業公社に移管することを義務づけることなどを骨子とした鉱業法改正法案が審議中であるとされる。また、政府は、国営石油公社同様、探査、採掘、加工事業も直接管理・監督する国営鉱業公社を創設する提案をしているとされる。これに対し、業界側は、国家が権益の過半数を有する合弁事業の場合、プロジェクトの推進や資金調達は困難になり、むしろ国家の財政負担が大きくなると主張し、政府の考えに反対の姿勢を示している。このような中、ベネズエラ鉱業基礎産業省は、現在、休眠中の鉱区に対して、国が51%を所有するPublic-Private Partnershipを結ぶよう、企業側に求めていくとともに、鉱石などの原料を海外に輸出することを規制する考えを示し、国家管理強化の動きが表面化している。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

金の2006年の生産量は、前年の14tから16t(Raw Materials Data)に増加した。内訳は、主力のLa Camorra金山(Hecla Mining社)が前年の3.2tから5.0tに増加したのに加え、2005年8月に、新たに操業を開始したChoco 10金山(Gold Fields社)から2.0tが生産された。

一方、ニッケルの2006年生産量は、前年並みの16.6千t(前年16.9千t)であり、全てLoma de Niquel鉱山から生産され、全量、フェロニッケルとして主に、オランダ、イタリア、英国等の欧州諸国に輸出されている。

4. 鉱山会社活動状況

現在、当国において特筆すべき鉱山会社はない。

5. 鉱山・製錬所状況

5-1 鉱山

以下、主要鉱山について生産動向を述べる。

(1) Loma de Niquel

首都カラカスの南西 80km に位置するニッケル鉱山(Anglo American 他)で、同国ニッケル生産の大部分を生産し、フェロニッケルとして欧州諸国に輸出している。2006 年のニッケル生産量は、前年比 300t 減の 16,600t であった。

同鉱山は、開発投資額約 500 百万\$により、2001 年に操業を開始したラテライト型の露天掘ニッケル鉱山で、現在の鉱量は 41.5 百万 t(ニッケル 1.48%)、マインライフは約 30 年とされている。

(2) La Camorra

ベネズエラ東部の Bolivar 地域に位置する当国最大の金山(Hecla Mining 社(米)が操業)で、高品位な鉱脈型金鉱床として著名。鉱量(2003 年末)は 0.537 百万 t(金 25.7g/t)である。2006 年の産金量は 5.0t と 2005 年の 3.2t を大きく上回った。これは、本鉱山の北 110km に位置する Mina Isidora 金山(産金約 10 t、品位 31g/t)が生産を開始したことに伴うもの。キャッシュコストは、品位低下、エネルギーコストの増大等で 2004 年の 180\$/oz から 2005 年は 337\$/oz、2006 年 345\$/oz と大幅に増加している。

(3) Choco 10

本鉱山は、ベネズエラ東部の El Callao 地区(Bolivar 地域)に位置する鉱染型金鉱床で、Bolivar Gold 社(加)と国営の CVG Minerven 社の JV(95%/5%)により開発が進められ、政府からの最終許可が遅れたため、予定より半年遅れの 2005 年 8 月に操業を開始した(粗鉱処理量 5.4 千 t/日)。その後、2006 年 3 月に、南アの産金大手である Gold Fields 社が、Bolivar Gold 社を 320 百万\$で買収し、現在に至っている。2006 年の生産量は約 2.0t であった。

なお、現在の鉱量は 20.8 百万 t(金 1.8g/t)、2006 年のキャッシュコスト 410\$/oz、マインラ

イフは約 13 年とされている。

また、Gold Fields 社は、本鉱床の周辺地区(Choco 1, 2, 9, 12, 13)でも鉱区を取得し、探査活動を行っている。

5-2 探鉱開発

現在は、地質ポテンシャルが高く、市況が高値推移している金を対象に、外資を中心として比較的活発な探鉱開発活動が見られる。

以下、主要プロジェクトについて探鉱開発動向を述べる。

(1) Las Cristinas

本鉱床は、ベネズエラ東部の Bolivar 地域に位置する、鉱染型の大規模低品位金鉱床(産金約 1,363 万 oz、品位 1.2g/t)で、世界でも有数の未開発金鉱床として注目されている。Crystallex International 社(加)が開発権を有するが、既に 2003 年 9 月に F/S を終了しており、F/S によると、初期開発投資額は 293 百万\$、露天掘採掘と CIL 法の採用により年産産金量 30 万 oz を計画している。

チャベス大統領による国営化政策の影響で、本プロジェクトの行方が懸念されていたが、2006 年 3 月、ベネズエラ政府は同プロジェクトの F/S 調査で経済面、技術面なども含め調査した結果、本プロジェクトが同国にとって重要なプロジェクトになると判断し、Crystallex 社に対し、Las Cristinas 鉱山開発を承認した。これを受け、Crystallex 社は、環境庁からの最終承認が得られ次第、建設工事に着手するとしている。

(2) Las Brisas

本鉱床は、Las Cristinas 鉱床に隣接する鉱染型金・銅鉱床で、本鉱床を保有する Gold Reserve 社(加)は、2005 年 1 月、開発を決定した。すでに、開発のための環境・社会影響評価調査を提出済みで現在、政府の承認待ちの状態。2008 年内の操業開始を目指しているとされる。

開発規模は、初期開発投資額 552 百万\$で、産金量 48.7 万 oz/年、産銅量 2.9 万 t/年、銅クレジットを考慮した金の生産キャッシュコストは 153\$/oz、マインライフは 16 年である。現在の鉱量は 485 百万 t(金 0.67g/t、銅 0.13%)である。

6.我が国との関係

非鉄鉱業分野におけるわが国企業との事業関係、輸出入関係は、現在は見られない。

(2007.6.9/リマ事務所 西川信康)